



24 七宝桜図花瓶 濤川惣助

一対

明治四十三年(一九一〇)頃 七宝
各径一四・七、高三三・七

濤川惣助(一八四七〜一九一〇)は下総国(千葉県旭市)に生まれ、東京に出て初めは製陶業を営んでいた。その後、尾張の七宝工・塚本貞助から七宝制作の技術を学び、名古屋に本拠を置く七宝会社の東京工場の運営を託された。赤坂離宮(現・迎賓館)花鳥の間の七宝額など、渡辺省亭ら優れた絵師による原図をもとにした絵画性の強い無線七宝で高い評価を受け、明治二十九年(一八九六)に帝室技芸員に任命された。

この花瓶では、花曇りを思わせる薄鼠色の地色で背景に、左右それぞれに花を咲かせた桜の枝が配されている。左の花瓶では上から、右の花瓶では下から枝が伸び、花と蕾、葉が無線七宝で表されている。葉の色味が左右の花瓶で異なるため、明暗の変化によって異なる時間帯を表しているのかもしれない。肥瘦のある枝の線や、一枚の葉の中で微妙に変化する色彩など、日本画の描写を彷彿とさせる高度な七宝表現である。濤川は日本の四季を感じさせる花鳥画を題材とした作品を数多く制作し、海外の博覧会でも高い評価を得ていた。明治四十三年十一月に開催された日本美術協会の第四十五回美術展覧会で技芸賞銅牌を受賞、宮内省買上となった本作は、濤川の最晩年に作られたものである。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

古典再生 — 作家たちの挑戦

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 72

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 宮内庁

平成二十八年三月二十六日発行

© 2016, The Museum of the Imperial Collections, Sanjūmaru Shōzokan